16日　日曜

Ⅱサムエル

3:22 ちょうどそこへ、ダビデの家来たちとヨアブが略奪から帰り、たくさんの分捕り物を持って来た。しかし、アブネルはヘブロンのダビデのもとにはいなかった。ダビデがアブネルを送り出し、もう安心して出て行っていたからである。
3:23 ヨアブと、彼とともにいた軍勢がみな帰って来たとき、「ネルの子アブネルが王のところに来たが、王がアブネルを送り出したので、彼は安心して出て行った」とヨアブに知らせる者があった。
3:24 ヨアブは王のところに来て言った。「何ということをなさったのですか。ご覧ください。アブネルがあなたのところに来たのです。なぜ、彼を送り出して、出て行くままにされたのですか。
3:25 あなたはネルの子アブネルのことをご存じのはずです。彼はあなたを惑わし、あなたの動静を探り、あなたのなさることを残らず知るために来たのです。」
3:26 ヨアブはダビデのもとを出てから使者を遣わし、アブネルの後を追わせ、彼をシラの井戸から連れ戻させた。しかし、ダビデはそのことを知らなかった。
3:27 アブネルはヘブロンに戻った。ヨアブは彼とひそかに話そうと、彼を門の内側に連れ込み、そこで彼の下腹を刺した。こうして、アブネルは、彼がヨアブの弟アサエルの血を流したことのゆえに死んだ。
3:28 後になって、ダビデはそのことを聞いて言った。「ネルの子アブネルの血については、私も私の王国も、【主】の前にとこしえまで潔白である。
3:29 その血は、ヨアブの頭と彼の父の家の全員に降りかかるように。またヨアブの家には、漏出を病む者、皮膚をツァラアトに冒される者、糸巻きをつかむ者、剣で倒れる者、食に飢える者が絶えないように。」
3:30 ヨアブとその兄弟アビシャイがアブネルを殺したのは、アブネルが彼らの弟アサエルをギブオンでの戦いで殺したからであった。
3:31 ダビデは、ヨアブと彼とともにいたすべての兵に言った。「あなたがたの衣を引き裂き、粗布をまとい、アブネルの前で悼み悲しみなさい。」そして、ダビデ王は棺の後をついて行った。
3:32 彼らはアブネルをヘブロンに葬った。王はアブネルの墓で声をあげて泣き、民もみな泣いた。
3:33 王はアブネルのために哀歌を歌った。「愚か者が死ぬように、アブネルは死ななければならなかったのか。
3:34 あなたの手足は縛られず、かせにもつながれずに。不正な者の前に倒れるように、あなたは倒れてしまったのか。」民はみな、さらに続けて彼のために泣いた。
3:35 民はみな、まだ日のあるうちにダビデに食事をとらせようとしてやって来たが、ダビデはこう誓った。「もし私が、日の沈む前に、パンでもほかの何でも口にすることがあれば、神がこの私を幾重にも罰せられますように。」
3:36 民はみな、そのことを認めて、それで良いと思った。王のしたことはすべて、民を満足させた。
3:37 民はみな、そして全イスラエルは、その日、ネルの子アブネルを殺したのは、王から出たことではないことを知った。
3:38 王は自分の家来たちに言った。「今日、イスラエルで一人の偉大な軍の将が倒れたのを知らないのか。
3:39 この私は油注がれた王であるが、今日の私は無力だ。ツェルヤの子であるこれらの者たちは、私にとっては手ごわすぎる。【主】が、悪を行う者に、その悪にしたがって報いてくださるように。」

ツェルヤの子であるヨアブは個人的な恨みから、味方となった人を王の許しなく勝手に殺してしまいました。ヨアブはダビデの家臣ではありましたが、彼もまた自分の感情を主とした自己中心であったのです。人の霊的状態は、その立場にはよらないことが分ります。
ダビデは「ツェルヤの子らであるこれらの者たちは、私にとっては手ごわすぎる。主が、悪を行なう者には、その悪にしたがって報いてくださるように。」と言って、ツェルヤの子であるヨアブを警戒するようになりました。（後にダビデとは信頼関係と緊張関係を共に併せ持つようになりました）
一方ダビデは赦しの人で、アブネルにも期待をかけていたのでその死を悼みました。主イエスの思いと共鳴するものです。
人を赦すことや信頼することには様々なことが絡んでくるものですが、信仰的には恨みや私情に流されずに、主の赦しを認めてその人に希望を見てあげることから始めるのが、主イエスに赦された者の、第一の選択肢です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）④この世にあって何を実践しますか？